

<今日の説教のポイント ルカによる福音書9章46-48節>

1 (46-47a) 「誰が一番偉いか」を議論すること自体のおかしさ。

弟子たちが「自分たちのうちだれがいちばん偉いか」という議論をしました。誰が一番偉いかを問うことは他の人と自分の違いを見つめ、比較し、優劣を付ける行為ですから、弟子たちはこれまでイエス様の話の何を聞き、何を見てイエス様に従って来たのだろうかと思わされます。彼らがイエス様の苦難予告に戸惑うのも当然だと思わされます(44)。イエス様は「**彼らの心の内を見抜き**」、どうされたのかに注目しましょう。

2 (47b-48) この出来事はイエス様の十字架の死の出来事と重なる。

「(イエス様は) **一人の子供の手を取り、ご自分のそばに立たせて**」。このルカの書き様は、当時の社会では役に立たない価値無しの存在であった子どもをイエス様が丁重に扱われたと感じさせます。イエス様はそのように示しながら、彼らの議論に対する答えを次のように示されたのです、「**あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である**」と。弟子たちはまだよく分からなかったでしょうが、ここでこれを聞いていたからこそ、後に理解できる時が訪れたとも言えるでしょう。私たちが聖書から学んでいく行為もそのような意味を持っているでしょう。

3 最も小さい者は私たち！ その私たちを受け入れて下さった神様。

イエス様の姿は現代の「子どもの権利」を思わせます。しかし、子どもを大事にする独特な理由がはっきり述べられている点が違います。イエス様は子どもの中に何か将来役に立つものを見ておられるのではなく、「**私たちが価値無しとみなすものを父なる神様が受け入れられるのだから、私たちも受け入れるべきなのだ**」と言っておられるのです。これ(無価値の子どもを受け入れる)も普通に考えると意味不明です。しかし、この意味不明に思われる内容は、父なる神様が御子を十字架にかけられたことに込められた内容と同じです。すなわち、神様はどんな者も大事に思って下さっているのだという内容です。イエス様が**手を取り、ご自分のそばに立たせて**下さった子どもは私たち自身なのです！ この世界を造り今も愛してやまない神様はどんな人もイエス様がこの子どもにして下さったように愛して下さっているのです。今の世界の状態を見ていると、この神様を思い全ての人を大事にしていくことこそが、遠いようで世界を救う真の近道ではないかと思わされます。その先おれとなるような教会形成をこれからも目指していこうではありませんか！